

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-①	課名	農林水産課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化		
戦略事業名	①一次産業スタート支援事業		
予算事業名	一次産業スタート支援事業		
令和3年度実績額	3,466,614円	令和4年度予算額(6月補正後)	5,269,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	①一次産業活動拠点施設の管理(実績) 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 36,520円 施設利用人数 延べ46人	①一次産業活動拠点施設の管理(実績) 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 35,420円 施設利用人数 延べ49人	①一次産業活動拠点施設の管理 日常管理 1,795,200円 消防設備点検 35,420円
	②一次産業体験事業(実績) 5人(7日間) 35,000円	②一次産業体験事業(実績) 0円	②一次産業体験事業 120人/年間 600,000円
	③就農総合支援事業補助(実績) 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 270,000円 新規就農者研修支援事業補助金(1人) 480,000円	③就農総合支援事業補助(実績) 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 67,500円 新規就農者研修支援事業補助金(0人) 0円	③就農総合支援事業補助 新規就農者住宅確保支援事業補助金(1人) 318,000円 新規就農者研修支援事業補助金(2人) 720,000円



一次産業活動拠点施設

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	新規就業者数		現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)		累計3人	⇒	令和3年度末
目標値(令和6年度末)	累計10人				

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	新型コロナウイルス感染症感染者拡大に伴う緊急事態宣言等で移動が制限されたことなどから、若年層を対象とする大学などでPR活動が行えなかったため、一次産業活動拠点施設を活用し新規就業に繋げることができなかったが、他事業において経営安定支援として町が支援してきた農業経営体において新規就農に繋げることができた。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>コロナ禍以前に大学等を対象に行っていた若年層に対するPR活動を感染状況に応じ行うとともに、コロナ禍においてもSNS等を活用した農業体験受入農家の情報や新規就農に対する支援策など、さまざまな媒体で広く発信するとともに、アフターコロナに向け農業体験受入れ農家と連携し態勢を整え、新規就業者の増加を図る。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>昨年度の外部評価において指摘のあった高校生へのアピールについては、上記②のとおりアフターコロナに向け、例年、若狭高等学校が開催し参加している「地域の方から学ぼう」でのPRや、「まちづくり政策コンテスト」に参加いただいた大学など、若狭管内における農業系や水産系などの高等学校や大学の学部・学科とも連携を図っていく。</p>	
④ 事業成果	
<p>平成30年度から一次産業活動拠点施設の本格的な運営を開始し、新たな一次産業体験者を受け入れ新規就業者の獲得に繋げるため、関西圏の大学等へのPR活動を行っていたが、令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の感染が長期化し、移動制限などの影響により、体験事業や一次産業拠点施設を活用した新規就農には繋がられていないが、他事業により町が支援してきた農事業者において新規就農者があった。</p>	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、一次産業体験事業の実績は厳しいものの、別の取組の成果として新規就農者があり、概ねKPIを達成している ・大学等へのPR活動の他、様々な媒体を利用して一次産業体験事業の周知を図るなどにより一層の事業進捗を図ることが重要 	

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-②	課名	農林水産課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化		
戦略事業名	②「お〜い★さかな君」発掘・育成事業		
予算事業名	「お〜い★さかな君」発掘・育成事業		
令和3年度実績額	1,040,380円	令和4年度予算額(6月補正後)	1,876,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②水産関係の地域おこし協力隊や移住募集 ③ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) (実績) ふくい水産カレッジ2名入校 ①受講費用負担(9月入校2人) 750,000円 ②交通費補助(交付先:大島漁協)(2人) 5,730円 地域おこし協力隊1名(H30年度から継続)	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担 ②ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) ③新規就漁者への家賃補助(1人分) (実績) ふくい水産カレッジ令和3年度入校者なし(R2から継続2名) ①受講費用負担(R2年度からの継続2人分) 750,000円 ②交通費補助(交付先:大島漁協)(2人) 6,180円 ③就漁者住宅確保支援事業補助金(交付先:大島漁協) 275,000円	漁業従事者への支援、新規就漁者の募集 ①ふくい水産カレッジ入校者の費用負担(2人分) 1,500,000円 ②ふくい水産カレッジ受講者への支援(受講に係る交通費補助) 42,120円 ③新規就漁者への家賃補助(1人分) 318,000円



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	新規就業者数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計6人		令和3年度末	累計8人	80.0
	目標値 (令和6年度末)	累計10人				

① 数値目標達成状況		おおむね達成
達成状況の要因分析	大島漁協からの水産カレッジ入校希望者の情報に対して素早く対応できたこと。(令和2年10月入校者は令和3年10月卒業) 漁協および水産事業者の意見を聞き取りしながら、引き続き必要な人材確保に努めたい。	
新たな目標の考え方	—	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>令和3年度はコロナウイルス感染防止拡大の面から、就漁フェア等には参加できなかったが、今後開催される時は積極的に参加し、人材の情報を収集したい。</p> <p>また、新規就漁者が、単独で漁業を行うための資格者となる准組合員になるためには、3年間の漁業体験が必要となる。このことから、漁協および水産業者と意見を交わしながら、年間を通して安定的に漁業収入を得られるための支援も必要と考えられる。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>昨年度の外部評価委員会において指摘のあった高校生へのアピールについては、上記②のとおりアフターコロナに向け、就業参加フェア等に積極的に参加し人材の情報収集を行うとともに、近隣の水産系の高校や、大学にも積極的に漁業の魅力のアピールを図っていく。</p>	
④ 事業成果	
<p>令和2年9月に入校者した方への補助を継続した。令和3年度は水産カレッジに入校した新規漁業者が0人だったが、令和6年度までの目標値はおおむね達成できている。</p>	
内部評価結果	
<p>目標値の達成に向けて順調に推移している。今後も、漁協および水産事業者などと連携をとりながら一層の事業進捗を図ることが重要</p>	

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-③	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町ならではの農林水産業の支援と活性化		
戦略事業名	③特産品開発・販売促進支援事業		
予算事業名	特産品開発・販売促進支援事業		
令和3年度実績額	1,289,625円	令和4年度予算額(6月補正後)	2,155,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>特産品改良支援 4件 ・牡蠣殻そうじ機導入支援 ・低温貯蔵庫導入支援 ・贈答容器作成支援 ・しいたけシール作成支援</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 1回 ・越前・若狭紅白味自慢2020への出店、PR</p>	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>特産品改良支援 5件 ・島ジャコ天商品パッケージ作成支援 ・越前かに贈答用箱作成支援 ・お〜いの魚屋暖簾・のぼり作成支援 ・ふくいサーモンPRパネル作成支援 ・さぶりの里山のお米袋等作成支援</p> <p>機械装置等取得 3件 ・うろこ取り機導入支援 ・穀類害虫駆除機導入支援 ・ジビエ用真空包装機・冷凍庫導入支援</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 1回 ・シーフードショー東京</p>	<p>地元産品を活用した特産品の開発や改良経費、商談会への参加を支援し販路拡大や新たな商品開発を進める。</p> <p>商品開発改良等 4件 機械装置等取得 2件</p> <p>イベント参加及び商談会等の販売促進活動 2回</p>



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	商品開発数			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計3件		令和3年度末	累計6件	66.7
	目標値(令和6年度末)	累計9件	⇒			

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	特産品開発・販売促進等支援事業補助金を活用した商品の改良や機械装置導入等により、特産品の魅力向上、生産の効率化は進んでおり、生産者等の意欲も年々高まっている。今後は、生産者等の意欲を、商品開発に繋げていき目標を達成したい。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>コロナ収束後の特産品への需要を見極めるため、常に市場調査は必要であり、販路を拡大させていくためにも販売促進活動に取り組むことが重要である。</p> <p>特産品のPR活動として、従来からのイベント等への参加に加え、流通関係者に直接アプローチが出来る商談会等へ積極的に参加する。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>アフターコロナ、withコロナの視点から、感染対策を徹底したうえで、イベントの開催を検討していきたい。</p>	
④ 事業成果	
<p>令和元年度の新商品開発3件以降、2年間実績がない。令和3年度において、新商品の開発に係る成果は無いが、特産品開発・販売促進等支援事業補助金により特産品のパッケージ改良や機械設備の導入等に対し、8件の助成を行った。</p>	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度も、コロナ禍以前のような販売促進活動ができておらず、顧客のニーズ等を商品開発に繋げる機会が結果的に少なかったことから目標値が実績を下回っている ・一方で、設備導入等への支援は8件で令和2年度から倍増しており、生産者の意欲は引き続き高いものと思われる。アフターコロナに向けてKPIは維持するとともに、継続的に支援に取り組むことが重要 	

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-④	課名	商工観光課
戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	④起業促進支援事業		
予算事業名	起業促進支援事業		
令和3年度実績額	46,580円	令和4年度予算額(6月補正後)	15,047,000円
事業の概要 (実績)	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
	新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。 町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。	新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。 町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。	新規創業を推奨することにより、商工業の活性化を図り、減少傾向を辿る町内事業者数の確保を図るとともに、I・J・Uターンの契機を創出する。 町内において創業を希望する方に対し、創業時の負担を軽減するため、初期投資等に係る費用の2/3(上限5,000千円)を助成する。
	・新規創業 2件(美容業) 実績額 10,000千円	・新規創業 0件 実績額 0円	

評価(Check)						
成果を測る指標 (KPI・数値目標)	起業件数(事業活用による累積)		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (平成30年度)	累計8件		令和3年度末	累計14件	46.7
	目標値 (令和6年度末)	累計30件				
① 数値目標達成状況					現状では達成が難しい	
達成状況の要因分析	令和2年度から「おおい町起業促進支援事業補助金」として、一次創業向け制度としてスタートし、令和2年度は2件の起業があったが、令和3年度は0件であった。 令和元年度までは相談体制や申請のし易さに重点を置いたためか、経営見通しの甘い経営計画が見られたことで、令和2年度から審査の厳格化、相談時の指導を強化した結果、令和3年度は申請1件に対し、採択は0件となった。					
新たな目標の考え方	—					

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>令和2年度から事業対象者を一次創業者に限定したためか、採択は前年度より減少した。一方で、申請期間を定め有識者等による事業計画の審査を行うことにより、起業後の経営見込に対するチェック機能を働かせることができた結果という見方もある。</p> <p>申請者からの事業計画に対する審査について、より効果的な手法等に改善を図りつつ、一方で創業希望者にとって活用しやすい制度運営を行う。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>外部評価において、町内外へのPRが必要との指摘を受けている。令和3年度はリライトにおいて、チャレンジ区画、テナント区画、及びシェアオフィス区画の公募や、集客目的のカフェ・アウトドアショップとの契約時には、HPや記者会見を活用し、広くPRに務めた。</p> <p>受付時期の検討や、創業支援セミナーの複数回実施をおおい町商工会へ依頼するなど、柔軟な申請受付を今後検討していきたい。</p>	
④ 事業成果	
<p>令和元年度から令和3年度の年平均の起業件数は2件に留まっており、目標の年平均3.7件には達していない状況である。</p> <p>令和2年度から補助対象を一次創業に限定するとともに、申請期間を定め事業内容の審査を行うこととしたため、以前より申請及び採択件数が減少する傾向となったが、創業支援セミナーの受講者募集に合わせて補助制度の周知を行う等により、事業の浸透を図り、目標の達成に努めたい。</p>	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・実績が目標値を下回っているが、令和4年7月に「SEE SEA PARK」がオープンし、起業を希望する方がチャレンジしやすい環境が整うこととなるためKPIは維持する ・チャレンジショップ棟に入居している方について、2年間のチャレンジ期間が終了後の本格的な起業に繋げるべく、支援制度の活用や創業支援セミナーへの参加を促していくことが重要 	

第2次おおい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-⑤	課名	しごと創生室
------	-----	----	--------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	⑤チャレンジショップ整備事業		
予算事業名	チャレンジショップ整備事業		
令和3年度実績額	984,727,139円	令和4年度予算額(6月補正後)	274,693,200円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・実施設計業務(R元年度から繰越) 21,236,300円 ・チャレンジショップ棟整備工事 (R2年度へ一部繰越) 50,000,000円 ・〃 施工監理委託料 9,109,000円 ・地中熱利用設備整備工事(その1) 114,851,000円 ・〃 施工監理委託料 3,520,000円 ・指定管理委託料 20,000,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ棟整備工事 (R2年度から繰越) 811,850,000円 ・〃 施工監理委託料 9,376,000円 ・地中熱利用設備整備工事(その2) 28,152,000円(一部 R4年度へ繰越) ・複合商業施設周辺整備工事 85,140,000円(一部 R4年度へ繰越) ・施設備品購入費 27,319,930円(一部 R4年度へ繰越) ・指定管理委託料 19,998,000円 ・オープニングイベント開催委託料(R3年度分)2,600,000円 ・サイン製作設置委託料 4,722,300円 	<ul style="list-style-type: none"> ・地中熱利用設備整備工事(その2)(R3年度から繰越) 42,228,200円 ・〃 施工監理委託料(R3年度から繰越) 4,796,000円 ・複合商業施設周辺整備工事(R3年度から繰越) 126,749,000円 ・〃 施工監理委託料(R3年度から繰越) 1,760,000円 ・チャレンジショップ魅力向上システム整備工事 60,000,000円 ・太陽光発電設備整備に伴う実施設計業務 8,404,000円 ・河川法面補修等工事 3,300,000円 ・指定管理委託料 20,000,000円 ・オープニングイベント開催委託料(R4年度分)6,090,000円



↑ SEE SEA PARKへの進出が決まった、カフェ(株式会社リケン)とアウトドアショップ(株式会社カンパネラ)との合同記者会見の様

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	起業件数(事業活用による累積)			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	累計8件		令和3年度末	14件	46.70%
	目標値(令和6年度末)	累計30件	⇒			

① 数値目標達成状況 現状では達成が難しい

達成状況の要因分析	令和2年度と令和3年度の年平均の起業件数は1件に留まっており、目標の年平均3.7件には達していない状況であるが、本施設の稼働により、起業を望む者へチャレンジの場が提供できることから、今以上の起業促進が図れる。チャレンジ区画のチャレンジャー及びシェアオフィスへの入居者については、指定管理者のリライトおおい(株)において全区画の入居が決まっており、今年度7月のオープンに向けて準備を行っているところである。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	<p>当該事業は町の商工・観光振興施策の種となる新たな産業の育成に資するものであり、商工会や観光協会等関係機関と十分な連携を取りながら進める必要がある。</p> <p>商工会館テナント棟の管理運営を行うリライトおおい(株)をチャレンジショップの指定管理者として選定したことにより、複合商業施設エリアの一体的な管理運営が期待できる。また、令和4年度から商工会、観光協会、(株)おおい、町商工観光課等で構成する連絡会を立ち上げ、イベントの効果的な活用や連携を行うことにより、うみんぴあを核とした町商工観光振興に繋げたい。</p>
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
<p>外部評価において、町内外へのPRが必要との指摘を受けている。令和3年度はリライトにおいて、チャレンジ区画、テナント区画、及びシェアオフィス区画の公募や、集客目的のカフェ・アウトドアショップとの契約時には、HPや記者会見を活用し、広くPRに務めた。</p>	
④ 事業成果	
<p>チャレンジショップ本体工事は令和3年度末をもって竣工となったが、同時整備の商工会館テナント棟の工事が建設資材等の納入遅れにより令和4年5月まで繰越しとなった。それに伴い、周辺整備工事が6月まで繰越しとなったことから、SEE SEA PARK全体のオープンは7月となった。</p> <p>一方で、チャレンジエリアの5区画とシェアオフィスエリアの5区画については、入居者が決まり、指定管理者の方で入居に係る手続きを進めているところである。</p>	
内部評価結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・実績が目標値を下回っているが、令和4年7月に「SEE SEA PARK」がオープンし、起業を希望する方がチャレンジしやすい環境が整うこととなる ・チャレンジショップ棟に入居している方について、2年間のチャレンジ期間が終了後の本格的な起業に繋げるべく、支援制度の活用や創業支援セミナーへの参加を促していくことが重要 	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-⑥	課名	商工観光課
------	-----	----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	⑥道の駅うみんぴあ大飯販わい創出・ブランド力推進事業		
予算事業名	うみんぴあ大飯事業(イベント委託)		
令和3年度実績額	3,987,500円	令和4年度予算額(6月補正後)	4,000,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	道の駅うみんぴあ大飯において、販わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努めた。 ・道の駅うみんぴあ大飯年間来館者数 201,596人 ・販わい創出イベント開催状況 海鮮焼き物市等2,714人 秋の大感謝祭 1,497人 きのご祭り 2,285人 いちご祭り 1,521人	道の駅うみんぴあ大飯において、販わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努めた。 ・道の駅うみんぴあ大飯年間来館者数 224,880人 ・販わい創出イベント開催状況 おおいのおさかなまつり1,173人 海鮮焼き物市&野菜試食会4,284人 きのご祭り 2,026人 カニ祭り1,527人 いちご祭り 1,540人	道の駅うみんぴあ大飯において、販わい創出イベントを開催し、町の特産品等を広くPRすることによって本町の認知度の向上に努める。 ・販わい創出イベント おおい梅まつり 海鮮焼き物市等 秋の大感謝祭 きのご祭り カニ祭り



評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	売上額			現 状		KPI達成率(%)
	基準値(平成30年度)	年間 182,591千円		令和3年度末	年間153,466千円	
	目標値(令和6年度末)	年間 200,000千円	⇒			76.7

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	イベント開催や情報発信等により誘客に取り組んでいるものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、目標通りの来客数を確保するまでには至っていない状況であるが、前年度に比べ新型コロナウイルス感染症の影響は少なかった。※令和2年度売上額142,580千円(R2からR3の対前年比+7.6%) 今後も新型コロナウイルス対策による外出自粛が続くことになれば、遠方からの観光客に依存する集客は難しい。イベント内容やPR方法をさらに工夫し、リピーターの確保と近隣地域からの集客に努めるとともに、積極的な情報発信を行い新たな観光入込客数の増加に努めていきたい。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)

ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針

道の駅において、季節に応じたイベントを開催することにより、時期に応じた町の特産品やイベント等のPRを行うことができるため、うみんぴあ大飯エリアだけではなく、その他の町内の観光スポット等への観光客増加に資することができる。
季節に応じた農産物や魚介類等をはじめとする特産品をテーマとしたイベントを開催し、リピーターの確保や新たな顧客の確保に努めるとともに、町内への周遊を促すための情報発信に努める。
毎月のイベントで徹底したコロナ対策を行うことで、道の駅では安心して地元産品を味わえ、買い物ができるという意識づけを行う。

③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映

アフターコロナ、ウイズコロナの視点から、感染対策を徹底したうえで、イベントの開催を検討していきたい。

④ 事業成果

新型コロナウイルス感染症の影響は継続しているが、コロナ前までとはいえないが、人流は少しずつ戻ってきた状況の中、道の駅うみんぴあ大飯において、参画者協議会や関係団体と連携した賑わい創出イベントを開催することにより、町の特産品や観光スポット、その他のイベント等を広くPRすることができた。

内部評価結果

・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、目標通りの来客数を確保するまでには至っていないが、前年度に比べ新型コロナウイルス感染症の影響は少なかった。※令和2年度売上額142,580千円(R2からR3の対前年比+7.6%)
・今後も、近隣地域からの集客やリピーターの確保などにつながるような情報発信や賑わい創出イベント等を実施していくことが重要

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-⑦	課名	しごと創生室
------	-----	----	--------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	本町の特性を活かした企業誘致		
戦略事業名	⑦産業団地造成事業		
予算事業名	企業振興対策事業		
令和3年度実績額	302,431,335円	令和4年度予算額(6月補正後)	241,622,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R2年度支払分) 21,650,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R2年度支払分) 1,090,000円 ・企業立地助成金(3社) 7,932,688円 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R3年度支払分) 265,810,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R3年度支払分) 9,070,000円 ・電気設備移転補償金(4社) 14,922,440円 ・企業立地助成金(3社) 7,864,831円 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業団地造成工事(R4年度支払分) 210,290,000円 ・産業団地造成工事施工監理業務(R4年度支払分) 7,330,000円 ・確定用地測量及び分筆登記業務 12,700,000円 ・企業立地助成金(3社) 7,798,000円



令和4年3月31日現在 進捗率

評価(Check)

成果を測る指標(KPI・数値目標)	利用企業数		⇒	現 状		KPI達成率(%)
	基準値 (平成30年度)	累計0件		令和3年度末	0	0.0
	目標値 (令和6年度末)	累計4件				

① 数値目標達成状況 おおむね達成

達成状況の要因分析	うみんぴあ大飯等への企業誘致に加え、多様な企業の進出を促し、雇用の場の確保を図るため新たに取り組む事業であり、令和3年度においては、予定どおりの進捗となり(進捗率60%)、工事完成は令和4年度末となっている。
新たな目標の考え方	—

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	工事残土活用の協議会等を活用し、佐分利川浚渫土砂と高浜発電所発生土砂を受け入れることが出来たため、工事費用の圧縮が出来た。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
出来るだけ本格的な企業誘致に取り掛かる必要があるとの評価をいただいたことも踏まえ、町HPの内容及びパンフレットの刷新を行い、周知徹底に努めている。	
④ 事業成果	
令和3年度の事業成果については、予定どおり工事を進められた。県工事等の発生土砂の受入れにより、工事費用の圧縮に努めることが出来た。	
内部評価結果	
産業団地の造成工事が令和4年度末に完了する予定であり、KPIは維持する。販売価格を算定し、できる限り早く本格的な企業誘致に取り掛かることが重要	

第2次おい町未来創生戦略 事業内部評価シート

整理番号	2-⑧	課 名	商工観光課
------	-----	-----	-------

戦略分類	2. 若者仕事		
取組の方向	ワンストップ起業支援とブランド力の向上		
戦略事業名	⑧名田庄トレイルコーディネート事業		
予算事業名	登山道維持管理事業		
令和3年度実績額	9,020,000円	令和4年度予算額(6月補正後)	10,340,000円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度(予定)
事業の概要(実績)		<p>名田庄地域を周回する約100kmのロングトレイルルートを令和3年度から3年間で整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名田庄トレイル整備コーディネート業務 (実績) 調査: 22ルート(109.2km) 整備計画: 6ルート(47.3km) ・旅をキーワードに、自分らしいアウトドアの楽しみを探す人に向けた専門誌「ランドネ」に特集記事掲載。 ・トレイルハイクの実施(1回) 	<p>名田庄地域を周回する約100kmのロングトレイルルートを令和3年度から3年間で整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名田庄トレイル整備コーディネート業務 (予定) 調査、ルート設定・整備、トレイルツアー 実施、運営組織づくり、マップ作成
			

評 価 (Check)

成果を測る指標 (KPI・数値目標)	ビジターセンター売上額		⇒	現 状		KPI達成率 (%)
	基準値 (令和元年度)	80,849千円		令和3年度末	52,492千円	62.9
目標値 (令和6年度末)	83,449千円					

① 数値目標達成状況		現状では達成が難しい
達成状況の要因分析	<p>トレイルルートの調査は計画通り実施できたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、トレイルツアーや地域との連携(運営組織づくり、人材育成)は思うように進められなかった。</p> <p>結果、「ハケ峰家族旅行村」と「ホテル流星館等」の既存施設を活用したビジター総売上額も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、目標には至っていない状況である。</p>	
新たな目標の考え方	別紙のとおり	

② 事業に取り組んだことで得られたノウハウや今後の方針(成果又は反省から得られた情報や知識など)	
ノウハウの内容・目標達成に向けた今後の活用方針	コロナ禍で高まるアウトドア人気やウィズコロナ、アフターコロナを見据えた観光地・観光産業の再生に向けて、具体的なモデルルートの設定を行い、多種多様なPRを展開していく。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で実施できなかったトレイルツアーも複数回実施し、参加者からの情報発信でトレイル愛好家に拡散し、ビジター利用に繋げたい。
③ 前年度の内部評価・外部評価の事業への反映	
④ 事業成果	
令和3年度は、トレイルルートの調査と整備計画、専門誌への記事掲載、トレイルハイクを実施しており、名田庄トレイルの整備に向けスタートした。 今後は、調査結果によりメインルートやアプローチルートの整備を進め、小ツアーの実施などに繋げ、目標の達成に努めたい。	
内部評価結果	
ウィズコロナの流れの中で、各施設とも令和4年度初めの観光入込客数は増加傾向にあるため、KPIは維持し、感染対策を徹底しながらトレイルツアーを実施するなど、ウィズコロナにおける取組やアフターコロナを見据えた情報発信や運営組織づくり、ガイド育成などを進め、令和6年度末の目標達成につなげていくことが重要	